



平成27年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年9月1日

上場取引所 東

上場会社名 **ダイドードリンク株式会社**
 コード番号 2590 URL <http://www.dydo.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高松 富也

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 コーポレートコミュニケーション (氏名) 長谷川 直和

TEL 06-6222-2621

四半期報告書提出予定日 平成26年9月3日

配当支払開始予定日

平成26年9月22日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年1月期第2四半期の連結業績(平成26年1月21日～平成26年7月20日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年1月期第2四半期	75,759	△2.4	2,471	△10.1	2,383	△14.7	1,174	△31.4
26年1月期第2四半期	77,650	10.3	2,748	△40.6	2,794	△38.4	1,711	△33.9

(注) 包括利益 27年1月期第2四半期 1,597百万円 (△28.4%) 26年1月期第2四半期 2,232百万円 (△15.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年1月期第2四半期	70.89	—
26年1月期第2四半期	103.31	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年1月期第2四半期	155,518	83,601	52.6
26年1月期	146,479	82,554	55.1

(参考) 自己資本 27年1月期第2四半期 81,803百万円 26年1月期 80,722百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年1月期	—	30.00	—	30.00	60.00
27年1月期	—	30.00	—	—	—
27年1月期(予想)	—	—	—	30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年1月期の連結業績予想(平成26年1月21日～平成27年1月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	155,000	0.1	5,200	△13.4	5,000	△16.1	3,000	△19.2	181.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注)詳細は、【添付資料】3ページ「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年1月期2Q	16,568,500 株	26年1月期	16,568,500 株
② 期末自己株式数	27年1月期2Q	1,626 株	26年1月期	1,626 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年1月期2Q	16,566,874 株	26年1月期2Q	16,566,934 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(4) 追加情報	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済・金融政策を背景に、緩やかな回復基調にあるものの、新興国経済の成長減速やウクライナ情勢の緊迫化等による海外景気に対する不安感や輸入原材料等の価格上昇、消費税増税による可処分所得の実質目減りなどの国内景気の下振れ要因があり、依然として楽観できない状況が続いております。

飲料業界におきましても、販売競争の激化や原材料価格の高騰などに加え、消費税率の引き上げに伴う駆け込み需要の反動減があるなど、収益確保に向け、厳しい経営環境が続いております。

こうした中、当社グループは、さらなる企業価値向上を目指して、新たな企業理念及びビジョンを制定し、中期経営計画「Challenge the Next Stage」をスタートさせ、将来の持続的成長の実現に向けた取り組みを積極的に展開いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、757億59百万円（前年同期比2.4%減）、営業利益24億71百万円（前年同期比10.1%減）、経常利益23億83百万円（前年同期比14.7%減）、四半期純利益11億74百万円（前年同期比31.4%減）となりました。

セグメント別の状況は、次のとおりであります。

①飲料販売部門

商品面では、厳選したコーヒー豆を使用し、創業以来こだわり続けてきたブレンド技術を駆使して開発した「ダイドーブレンド」ブランドの美味しさをより多くの皆様に知っていただくため、「ダイドーブレンドBLACK」や「ダイドーブレンド 世界一のバリスタが選んだ豆[微糖]」を新発売し、ボトル缶コーヒーのラインアップを拡充したほか、近年の健康ニーズの高まりに着目し、“海洋ミネラル深層水”を製品特徴とした「miu」ブランドをリニューアルするなど、ソフトドリンクのラインアップ強化に注力いたしました。

自販機の導入につきましては、「ヒートポンプ自販機」、「LED照明自販機」など地球環境に優しい節電効果の高い「エコ自販機」を積極投入し、地域社会やお客様に支持される自販機網の拡充に注力したほか、当社自販機の魅力をより多くの皆様に知っていただくため、新TV-CM「DyDo自販機」を順次放映するなど、広告販促の効果的活用にも努めてまいりました。

また、海外展開につきましては、100%出資子会社である「DyDo DRINCO RUS, LLC」がロシア・モスクワ市における自販機設置をスタートさせております。

以上の結果、飲料販売部門の売上高は626億85百万円（前年同期比3.3%減）、セグメント利益は、14億23百万円（前年同期比17.8%減）となりました。

②飲料受託製造部門

飲料受託製造部門である大同薬品工業株式会社は、医薬品を中心とする数多くの健康・美容飲料等のドリンク剤の研究・開発を重ね、お客様ニーズにあった製品の創造と厳格な品質管理や充実した生産体制により、安全で信頼される製品を製造しております。

しかしながら、近年、ドリンク剤市場は減少傾向にあり、ここ数年の成長をけん引してきた機能性・美容系ドリンクも飽和状態となるなど、市場環境は厳しい状況で推移しております。

このような状況の中、大同薬品工業株式会社は、業界No.1受託メーカーとしての飛躍を目指すべく、安全・安心な生産体制の維持強化、効率化の推進によるコスト削減の徹底を図るほか、受注拡大に向けて、大手医薬品等有力メーカーへの積極的な提案営業を展開いたしました。

また、将来の成長に向けて、台湾の大江生醫股份有限公司と健康食品・飲料の事業について検討を始めることで合意し、平成26年4月8日、覚書を締結いたしました。

以上の結果、飲料受託製造部門の売上高は、51億62百万円（前年同期比3.3%減）、セグメント利益は、7億11百万円（前年同期比1.4%増）となりました。

③食品製造販売部門

食品製造販売部門である株式会社たらみは、ドライフルーツゼリー市場においてトップシェアを有し、卓越した知名度とブランド力で事業基盤を確立し成長を続けておりますが、今般、「たらみ」ブランドのさらなる価値向上を目指すべく、新たな経営理念を策定し、その象徴として新たなコーポレートロゴを導入いたしました。

ゼリー市場での確固たる地位を築きつつ、より付加価値の高い商品、新たなデザート市場・販売チャネルの開拓を志向し、お客様の驚きや感動を生む商品を提供すべく、新しい分野の商品として「カロリーコカリカシリーズ」を発売するなど、市場のニーズにマッチした新商品を投入いたしました。

また、ダイドードリンコが新商品として発売した「たらみ ふって飲む桃のジュレ」「たらみ ぶるシャリみかん」の共同開発を行うなど、当社グループのさらなる企業価値向上に注力いたしました。

以上の結果、食品製造販売部門の売上高は、79億11百万円（前年同期比5.3%増）、セグメント利益は、3億50百万円（前年同期比9.1%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、有形固定資産や売上債権の増加などにより、前連結会計年度末と比較して90億38百万円増加し、1,555億18百万円となりました。

負債は、仕入債務や未払金の増加などにより、前連結会計年度末と比較して79億90百万円増加し、719億16百万円となりました。

純資産は、利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末と比較して10億47百万円増加し、836億1百万円となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末と比較して14億28百万円増加し、283億2百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益が23億83百万円となったことや、仕入債務の増加などにより、43億83百万円の収入（前年同期は51億38百万円の収入）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形及び無形固定資産の取得による支出などにより、29億66百万円の支出（前年同期は45億31百万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に長期借入れによる収入により、11百万円の収入（前年同期は15億96百万円の収入）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社では、消費税率の変更に伴い、政府方針や一般社団法人全国清涼飲料工業会の基本方針に従い、当社商品への適正な価格転嫁を行っておりますが、消費税増税による個人消費の動向への影響は、依然として不透明な状況にあります。

当第2四半期累計期間における業績および今後の見通しを勘案した結果、現時点におきましては、平成26年3月3日に公表した通期業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(役員退職慰労金制度の廃止)

当社及び一部の連結子会社は、平成26年4月開催の定時株主総会において、役員退職慰労金制度廃止に伴う打ち切り支給を決議いたしました。

これに伴い、「役員退職慰労引当金」を全額取崩し、打ち切り支給額の未払分125百万円を長期末払金として固定負債の「その他」に含めて表示しております。

なお、一部の連結子会社につきましては引き続き役員退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく要支給額を「役員退職慰労引当金」に計上しております。

(法人税率の変更等による影響)

「所得税法等の一部を改正する法律」が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成27年1月21日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異について、前連結会計年度の37.8%から35.4%に変更されております。

なお、この変更による影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年1月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年7月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	33,498	36,126
受取手形及び売掛金	14,474	18,652
有価証券	24,425	23,314
商品及び製品	4,968	7,415
仕掛品	6	14
原材料及び貯蔵品	1,295	1,394
その他	2,855	3,208
貸倒引当金	△19	△28
流動資産合計	81,503	90,098
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品(純額)	17,426	20,191
その他(純額)	17,035	15,867
有形固定資産合計	34,461	36,059
無形固定資産		
のれん	5,674	5,521
その他	6,034	5,895
無形固定資産合計	11,709	11,417
投資その他の資産		
投資有価証券	12,563	11,898
その他	6,266	6,064
貸倒引当金	△24	△19
投資その他の資産合計	18,805	17,942
固定資産合計	64,976	65,419
資産合計	146,479	155,518

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年1月20日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年7月20日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,514	20,144
短期借入金	4,693	5,818
未払金	11,298	14,498
未払法人税等	1,826	1,185
賞与引当金	1,032	1,106
役員賞与引当金	—	19
その他	7,257	6,404
流動負債合計	42,623	49,176
固定負債		
長期借入金	12,820	14,842
退職給付引当金	173	194
役員退職慰労引当金	732	166
その他	7,575	7,535
固定負債合計	21,302	22,739
負債合計	63,925	71,916
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,924	1,924
資本剰余金	1,464	1,464
利益剰余金	76,472	77,149
自己株式	△4	△4
株主資本合計	79,856	80,534
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	295	854
繰延ヘッジ損益	56	11
為替換算調整勘定	513	403
その他の包括利益累計額合計	866	1,269
少数株主持分	1,831	1,798
純資産合計	82,554	83,601
負債純資産合計	146,479	155,518

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年1月21日 至 平成25年7月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年1月21日 至 平成26年7月20日)
売上高	77,650	75,759
売上原価	35,556	34,364
売上総利益	42,094	41,395
販売費及び一般管理費	39,345	38,923
営業利益	2,748	2,471
営業外収益		
受取利息	235	95
有価証券売却益	70	—
受取賃貸料	29	2
その他	288	262
営業外収益合計	623	361
営業外費用		
支払利息	364	285
持分法による投資損失	59	73
その他	153	90
営業外費用合計	577	449
経常利益	2,794	2,383
税金等調整前四半期純利益	2,794	2,383
法人税等	1,036	1,189
少数株主損益調整前四半期純利益	1,757	1,194
少数株主利益	46	19
四半期純利益	1,711	1,174

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年1月21日 至 平成25年7月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年1月21日 至 平成26年7月20日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,757	1,194
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	157	558
繰延ヘッジ損益	△0	△45
為替換算調整勘定	99	△31
持分法適用会社に対する持分相当額	218	△78
その他の包括利益合計	474	403
四半期包括利益	2,232	1,597
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,182	1,577
少数株主に係る四半期包括利益	49	20

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年1月21日 至 平成25年7月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年1月21日 至 平成26年7月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,794	2,383
減価償却費	5,998	6,191
のれん償却額	153	153
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	26	△565
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	8	3
賞与引当金の増減額 (△は減少)	60	73
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	19	19
受取利息及び受取配当金	△256	△112
支払利息	364	285
持分法による投資損益 (△は益)	59	73
有価証券売却損益 (△は益)	△70	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△5,306	△4,178
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,898	△2,570
仕入債務の増減額 (△は減少)	4,780	3,591
未払金の増減額 (△は減少)	△402	1,510
その他の資産の増減額 (△は増加)	△293	△370
その他の負債の増減額 (△は減少)	369	△36
小計	6,406	6,451
利息及び配当金の受取額	290	129
利息の支払額	△357	△284
法人税等の支払額	△1,201	△1,912
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,138	4,383
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△3,489	△3,372
定期預金の払戻による収入	3,877	1,699
有価証券の取得による支出	△19,495	△22,497
有価証券の売却及び償還による収入	15,599	26,810
有形及び無形固定資産の取得による支出	△4,059	△4,419
有形固定資産の売却による収入	0	14
投資有価証券の取得による支出	△508	△1,409
投資有価証券の売却及び償還による収入	3,620	133
長期貸付金の回収による収入	0	0
その他	△76	76
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,531	△2,966

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年1月21日 至 平成25年7月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年1月21日 至 平成26年7月20日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	10	—
短期借入金の返済による支出	△10	—
長期借入れによる収入	7,032	5,660
長期借入金の返済による支出	△1,453	△2,513
リース債務の返済による支出	△3,266	△2,585
配当金の支払額	△662	△497
少数株主への配当金の支払額	△52	△52
自己株式の取得による支出	△0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,596	11
現金及び現金同等物に係る換算差額	85	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,289	1,428
現金及び現金同等物の期首残高	29,051	26,874
現金及び現金同等物の四半期末残高	31,341	28,302

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年1月21日至平成25年7月20日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	飲料 販売部門	飲料受託 製造部門	食品製造 販売部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	64,802	5,337	7,510	77,650	—	77,650
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	390	10	400	△400	—
計	64,802	5,728	7,520	78,051	△400	77,650
セグメント利益	1,731	700	321	2,753	△5	2,748

(注) 1. セグメント利益の調整額△5百万円には、セグメント間取引消去0百万円、棚卸資産の調整額△5百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

- II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年1月21日至平成26年7月20日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	飲料 販売部門	飲料受託 製造部門	食品製造 販売部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	62,685	5,162	7,911	75,759	—	75,759
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	369	17	386	△386	—
計	62,685	5,531	7,929	76,146	△386	75,759
セグメント利益	1,423	711	350	2,484	△12	2,471

(注) 1. セグメント利益の調整額△12百万円には、セグメント間取引消去0百万円、棚卸資産の調整額△13百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。